

H25 一学期児童アンケート 考察

- ・いじめや不登校に関する悩みや問題行動等、子どもからの危険シグナルを察知し、問題行動や家庭との深刻なトラブルを未然に防止し、より良い問題解決につなげる。
- ・学校における子どもの様子全般について把握し、事後の学習活動や学級活動の指導・改善に役立てる。
- ・特別な支援が必要と思われる内容を職員全体で共通理解しながら、より良い改善策を考え組織的に対応する。

1 学校は楽しいですか。

- ・91%が、『いつも楽しい』『だいたい楽しい』と答えていて、昨年より3ポイント下がっている。学年によって割合の違いがあるので、『あまり楽しくない』『楽しくないことが多い』と感じている児童とその理由をきちんと把握し、改善する手立てを講じる必要がある。
- ・『あまり楽しくない』『楽しくないことが多い』の理由に、「怒られるから」「いやなことをされる」「いじめられる」などがあり、先生と子ども・子どもどうしの人間関係が、学校が楽しくなる要因になっている。子どもへの声かけや対応の仕方を、わたしたち教職員も情報交換の中で明らかにしていくことが必要である。また、子どもどうしの様子を授業や休み時間などに見取って、学級づくりに生かしていきたい。
- ・『あまり楽しくない』『楽しくないことが多い』の理由に、「勉強がわからない」というものもある。学習への支援が必要な子に、きめ細かい指導をしていくことも必要である。

2 学校へ行きたくないと思うときがありますか。

- ・学校へ行きたくないと思うときが『週1回くらいある』『よくある』が、20%で、昨年より約7ポイント増加している。学年によって割合が違うが、5人に1人というのは、楽観できる割合ではないと思う。
- ・理由は、「遊ぶ人がいない」「ケンカが嫌」「勉強がむずかしい」「怒られる」などで、『1 学校は楽しいですか』の理由と一致するものもある。先生と子ども・子どもどうしの人間関係・クラスの雰囲気など、わたしたち教職員の力で解決できる問題もある。一人一人が抱えている問題を解消していけるように、家庭とも連携を取りながら対応していきたい。

3 学校の勉強がわかりますか。

- ・93%の子が、学校の勉強が『わかる』『だいたいわかる』と答えている。
- ・少数ではあるが、1と2の設問と関連がある子がいるので、「わかる授業」をめざしていきたい。また、校内研究で取り組んでいる「いきいきと学び合う授業づくり」や家庭学習の充実を、全職員で意識していきたい。

4 困ったときに相談できる人がいますか。

- ・92%の子が『いる』と答えている。
- ・高学年になるにつれて、相談する人が家族や先生から友だちに変わっていく子もいる。相談する人がいない…ことのないように、友だち関係を気にかけて、様子を観察したりして、声かけをして

いきたい。

5 しっかりそうじができましたか。

- ・ 92%の子が、「よくできた」「できた」と答えている。
- ・ そうじの手順がわかっていることと、教職員が共にそうじをすることが、子どもたちのそうじへの意識を高めることにつながるのではないかと思う。

6 進んであいさつができましたか。

- ・ 85%が「よくできた」「できた」と答えている。
- ・ 児童会のあいさつ運動が盛んに行われ、「あいさつ」への意識は高まっている。
- ・ 学年によって割合が違ったり、あいさつの仕方（相手の顔を見る・大きな声でする・気持ちのよいあいさつをする…）が人それぞれだったりするので、学年・学級での取り組みも必要だと思う。

（文責・川崎）